

中 1 国

令和三年度 学力診断のためのテスト

※放送問題は最後のページにあります。

中学校第一学年

組

番

名前

※解答はすべて解答用紙に書きなさい。

1

次の――の付いた漢字の読みがなを、ひらがなでいてねいに書きなさい。

2

次の――の付いた部分を、漢字で正しくていてねいに書きなさい。必要なときは、送りがなも書きなさい。

① 新しいやり方を 試す。

② 速やか に作業を行う。

③ 雑木林 を歩く。

④ 車窓 からの景色をながめる。

⑤ 集めたゴミを すてる。

⑥ 日を あらためて 行う。

⑦ 部品を ふくざつ に組み合わせる。

⑧ 課題に対して きんべん に取り組む。

3

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

牧野、リョウガ、タモちゃんの三人はチームを組み、中学校の文化祭でダンスとジャグリングを発表する。未経験から始めた三人だったが、練習を重ねるうちに上達し、本番を迎える。

ふたりを越えて飛びこみ前転をする役目は、牧野の指の具合で直前に決めようということになっていた。最初に無理をすると、ウィンドミルが回れなくなるから、不安ならリョウガがその役目を引き受けるという約束になっていた。

「わかった」

覚悟はしていたけれど、いざ引き受けると、心臓は別の生き物みたい

に体の中でその存在を主張して踊りはじめた。

「あがってるね」

タモちゃんは、いきなりリョウガの頬をはさむようにパンパンと両手でたたいた。それから、ポケットからボンタン飴の箱をこっそりと出して、ひとつぶをリョウガの口の中におしこめた。タモちゃんの体の熱をおびた、やけになまぬるいボンタン飴だった。

「リラックスするおまじない。こわいの、こわいの、とんでいけ。おばあちゃんが、よくおまじないをかけてくれたから」

「それ、なんかちがうんじゃない？」

牧野が横目でにらむのに、タモちゃんは牧野の口にぽいとボンタン飴をほうりこんで、自分も食べた。

オブラートに包まれた甘さが、一呼吸おいてから伝わってくる。今は亡き、タモちゃんのおばあちゃんがすきだったというその飴をなめると、夏にタモちゃんの家で合宿と称して、ダンスの練習をした晩のことが思い出された。ないしよで食べるには、歯にくっついて口が大きく動いてしまうから、ちよっと不便な飴だった。

「おれ、ホントにできるかな？」

整形外科の先生にいわれたとおりに、きのうまで怪我をしている手を使わなかった牧野が、急に不安になったみたいで、めずらしくもごもごといった。

「きのうやって、できたんだから、大丈夫だよ。体が覚えてるって。おれは、信じてる」

甘さをおみこんで、リョウガは牧野にいった。

「牧野、手、出して」

タモちゃんは、舞台のそでにあった文化祭委員のボールペンを拝借して、牧野の左手の中指に、絵を描きだした。温泉妖怪ぬんぬくだ。描き終わると、リョウガの左手中指にも、自分の中指にも、同じように描いていく。

「リラックスのおまじない。パート2」

とぼけた顔の温泉妖怪が指の腹で、につこりとこちらを見ている。自然と笑みがこぼれてくる。

「よし」と牧野がいった。

リョウガは、舞台のそでにジャグリングボールとジャグリングクラブを置くと、牧野とタモちゃんの目を見て、準備オーケーとうなずいた。

牧野が手を下に出したので、リョウガとタモちゃんはその上に手を重ねた。

「いろいろ迷惑かけたけど……」

牧野が一瞬言葉をきった。

「きょうは、がんばる。がんばろう!」

「おお!」

「おお」

「中二男子、牧野卓将、小宮山保、峰口リョウガの三人がおくる『ジャグリング&ダンス・ユニットMRT』、どうぞ」

「行くよ」

牧野のかけ声で、リョウガは、お腹にぐつと力を入れて、牧野とタモちゃんの背中を見ながら、舞台中央後方に向かって歩き出した。

(筑井千枝子「オフカウント」新日本出版社)

※1 ジャグリングⅡ手に道具を持ち、空中に投げたり取ったりをくり返す技

※2 ウインドミルⅡダンスの技の一つ

※3 オブラートⅡうすく透明で食べることのできる包み紙のようなもの

⑨ (1) その が指し示す行動を、文章中から十六字で抜き出して書きなさい。

⑩ 文章中の [] で示した部分の表現の特徴として、もっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 短い文を多く用いてきん張感を持たせることで、読んでいる人もその場にいるように感じさせている。

イ 回想的な場面を挿入することで、過去から現在へのつながりを意識させる効果を持たせている。

ウ 比喩表現を用いることで、三人の文化祭でのグループ発表にかけるといふ思いを強調している。

エ 情景描写を用いることで、リョウガのタモちゃんの行動に対する感謝の気持ちを表している。

⑪ (2) もごもごと 同じような意味で使われているものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 早起きが苦手で、ふとんの中でももごもごと動く。

イ 家で母の手作りのカレーをもごもごと食べた。

ウ 何をしてよいか分からず、もごもごとしている。

エ 自信のない問題を指名され、もごもごと答えた。

⑫ リョウガの気持ちの変化をまとめた文として、最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 発表がうまくいくか不安だったが、友達とがんばろうと覚悟を決めている。

イ 発表がうまくいくか不安だったが、成功したことを喜んでいる。

ウ 友達のけがに不満があったが、役目が増えてやりがいを感じている。

エ 友達のけがに不満があったが、発表できることに満足している。

⑬ 次の【話合いの様子】は青山さんたちが、印象に残った登場人物を一人選んで感想を伝え合っているところです。 [] にあてはまる内容を、文章中の言葉を使って、二十字以上、三十字以内で書きなさい。

(句読点や「」も一字分とします)

【話合いの様子】

川口さん 私はリラックスさせようと「おまじない」をかけてくれたタモちゃんに印象に残ったよ。自分も周りの友達にこういうことをしてあげたいな。

山田さん 私は部活動の大事な試合の前に怪我をしたことがあるから、牧野の気持ちが分かる。

青山さん 私はリョウガの仲間を大切にすることがいいと思う。

特に [] ところは、とても印象に残ったな。

青山さんは、学校の授業で「語彙力を豊かにする」というテーマで学習を進めています。次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

おいしい料理を食べた時、一緒に食べている人に、「これおいしいね」という。そうやって語り合うことによってその料理はさらにおいしく感じるかもしれません。そんな時に、「ただ「おいしいね」と言ってももちろんいいのですが、「この味は春らしい感じがするね」とか、この食感「雪をなめた時のようだね」とか、ことは「言語によってもう少し細かい表現することによって、おいしさは増し、食事の楽しさも増すかもしれません。テレビ番組では「食レポ」といういいかたがありますが、「食レポ」がうまくできるということは、料理にかかわる語彙力が豊かであるということです。そのことによって、料理がおいしく感じるのだとすれば、語彙力が食事をおいしくするということになります。⁽¹⁾ 感覚はむしろ語彙力によって増強されていくといってもいいかもしれません。

ことは「言語の役割は他の人とコミュニケーションをはかるためだけのものではないと筆者は考えていますが、コミュニケーションをはかるために使うことは事実です。ことは「言語によって、他の人との関係が始まり、また終わるかもしれません。失言によって、疎遠^{そえん}になってしまふ、ということとはよくあることです。その「失言」も後から考えれば、「こういう言いかたをすればよかっただけなのに」ということもありそうです。「言いかた」はたしかにあります。同じ「内容」であっても、言いかたによって、聞き手／読み手の受け取りかたが全然異なる場合があります。これは嘘をつくということではまったくありません。どういう視点からことがらをとらえ、それをどのように聞き手／読み手にもちかけ

るか、ということです。

ここでも語の選択が A。「だめだ」と言うのと「必ずしもよいとは思いいく」と言うのではちよつと感じが違いますね。結局は同じ「内容」であるにしても、「言いかた」一つでずいぶんとその後の展開が変わるということだってありそうです。

それは丁寧な話しかたを学べばなんとかなるのではないかと思われる方もいるでしょう。 B そういう面もあります。

C、例えば会話であれば、その場の会話がどのように展開していくかは予測ができません。そういう意味合いではあらかじめ「仕込んでおく」ことができることは限られています。あとは、その場で適切な「言いかた」が選択できるか、ということになります。そうなることややはり語彙力があるかないかに左右されることもありそうです。別の「言いかた」をしようと思っても、どんな語を使えばいいかわからなければ、そもそも「別の言いかた」が浮かばないということです。

（今野真二「大人になって困らない語彙力の鍛えかた」河出書房新社）

- ⑭⁽¹⁾ 感覚はむしろ語彙力によって増強されていくとありますが、この部分について青山さんは、もっと具体的に説明したいと考えました。文章中の「語り合う」「きめ細か」という二つの言葉を必ず使って、次の（ ）にあてはまるように、三十五字以上、四十五字以内で答えなさい。

(句読点も一字分とします)

() 料理をさらにおいしく感じるかもしれない。

() ことで、

- ⑮ A に入る慣用句として、最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

- ア ものをいいそうです。
イ ものにするようです。
ウ ものになるそうです。
エ ものは使いようです。

- ⑯ 空欄 B ・ C に入る言葉として、最も適切なものを、次のア～オの中から一つずつ選び、その記号を書きなさい。

- ア よって イ しかし ウ そのため
エ さらに オ たしかに

- ⑰ この文章に書かれていた内容として、最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 他の人とコミュニケーションをはかるために、ことば＝言語は必要であるため、なるべく短くわかりやすい表現を使うとよい。
イ 「だめだ」と言うのと「必ずしもよいとは思にくい」と言うのでは、ちよつと感じが違うため、言い換えないほうがよい。
ウ 「別の言いかた」が浮かばないときのために、どんなことば＝言語をつかえばよいか、あらかじめ「仕込んでおく」ことができるとよい。

エ ことば＝言語によって、他の人との関係が始まり、また終わることもあるため、その場その場で適切な「言いかた」を選択できるとよい。

- ⑱ 青山さんは、文末表現に着目し、気づいたことをノートにまとめました。あ ・ い にあてはまる言葉を、文章中からそれぞれ抜き出して書きなさい。

【青山さんのノートの一部】

文末表現

- ・筆者の文章の述べ方 例 あ ・ い など
- ↓ はつきりと言いつ切るのではなく、遠回しな言い方。読み手に、自分の主張を押し付けすぎないように配慮している。
- ・一学期に学習した説明文の述べ方 例 だ・である・なのだ など
- ↓ はつきりと言いつ切り、自分の主張を明確に伝える言い方。
- あいまいな表現よりも、説得力がある。

青山さんは、生徒会役員として、校内に掲示する生徒会だよりを発行することになりました。内容は、新人戦で活躍した部活動についてです。そこで、「語彙力を豊かにする」の学習で学んだことを生かし、見出しに使う言葉を何にするか考えています。次に示しているのは、作成した「生徒会だよりの下書きの一部」と、生徒会だよりの「見出しの言葉の候補」、青山さんが見ている「国語辞典の記述」です。あなたなら、「見出しの言葉の候補」のうち、どの言葉を使いますか。【見出しの言葉の候補】の中から一つ選び、それを選んだ理由を、次の条件に従って、百字以上、百四十字以内で原稿用紙に書きなさい。

【生徒会だよりの下書きの一部】

新人戦で 活躍

先日行われた地区新人体育大会において、野球部のみなさんが県大会への出場を決めました。本校の野球部は、部員が9人という少ない人数ながら、驚きの結果を残しました。

この結果について、キャプテンの赤木くんは、「信じられない。夢のようだ。」と答えてくれました。

野球部が県大会に出場するのは、10年ぶりのことだそうで、校長先生は「華々しい快挙でうれしい。県大会でもがんばってほしい。」とおっしゃっていました。

【見出しの言葉の候補】

新人戦で 活躍

- ・ 目覚ましい
- ・ 輝かしい
- ・ 劇的な

【国語辞典の記述】

目覚ましい

目がさめるほどすばらしい。びっくりするほどりっぱだ。

輝かしい

まぶしいほどはなやかだ。

劇的な

うるわしい情景や感激のシーンといった、まるで劇を見ているような感じの場面である。

(三省堂 例解新国語辞典 より一部抜粋)

【条件】

①9 条件 1 【見出しの言葉の候補】のうち、どの言葉を使おうと考えたか、わかるように書くこと。

②0 条件 2 【見出しの言葉の候補】について、【国語辞典の記述】の中のどのような意味に着目したのかを、その部分を正しく引用しながら書くこと。

③1 条件 3 【見出しの言葉の候補】について、【国語辞典の記述】と【生徒会だよりの下書きの一部】を関連付けて、その言葉を選んだ理由を書くこと。

④2 条件 4 言葉の間違いや、主語と述語のつながりなどに気を付け、文末は敬体に統一して書くこと。

6

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【古文】

これも今は昔、田舎の児ちこの比叡ひえの山へ登りたりけるが、⁽¹⁾桜さくらのめでたく咲きたりけるに、風のはげしく吹きけるを見て、この児さめざめと泣きけるを見て、僧そうのやはら寄りて、「なかうは泣かせ⁽²⁾給ふぞ。この花の散るを惜しう覚えさせ給ふか。桜ははかなきものにて、かくほどなくうつろひ候まをすふなり。されども、さのみぞ候ふ」と慰めければ桜の散らんは、あながちにいかがせん。苦しからず。わが父の作りたる麦の花散りて、実のいらざらんを思ふがわびしきといひて、さくりあげてよよと泣きければ、⁽³⁾うたてしやな。

(宇治拾遺物語)

【現代語訳】

これも今では昔のこと、田舎育ちの稚児ちごが比叡山延暦寺ひえいざんえんりやくじに入っていたが、桜の花がみごとに咲いていたところに、風がはげしく吹いたのを見て、この稚児がさめざめと泣くのを見て、ある僧がそつと歩み寄って、「どうしてそんなに泣きなさる。この花の散るのを惜しいとお思になるのですか。桜というものははかないもので、このようにじきに散ってしまうのです。けれども、世の中のこととはみんなそのようなものですよ」と慰めたところ、稚児は、「桜が散るのはどうしようもないことです。ちつともかまいません。私の父の作っている麦の花が散って、実がならないだろうと思うと、それがせつないのです」といって、しゃくりあげておいおいと泣いたというのだが、興きようざめなことだなあ。

②③ 青山さんは書写の授業の中で、⁽¹⁾桜さくらのよ

うな、文字を読みやすい状態で、なおかつ速く書くための書き方を学びました。その文字の書き方を漢字二字で答えなさい。

②④ 給たまふ⁽²⁾を現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

②⑤ 【現代語訳】をもとにすると【古文】には「⁽³⁾」を付けられる部分がもう一か所あります。その部分を探し、初めと終わりの三字を書きなさい。

②⑥ うたてしやな⁽³⁾とありますが、それはなぜですか。A B にあてはまる言葉を【現代語訳】をもとにそれぞれ書きなさい。

僧は A ことを名残惜しく思っているのだと考えたが、田舎の稚児は B が散って、収入が少なくなることを嘆なげいているとわかったため。